
旧国鉄鉄道遺産の承継方法について

2022年3月25日

1 旧国鉄鉄道遺産の承継方法 「移設保存」

- ・できるだけ町有地を活用
- ・駅舎近くで乗降、待合可能
- ・憩いの場 → 既存公園も活用
- ・今後、JR敷地について協議を進める必要がある

JR敷地

1 旧国鉄鉄道遺産の承継方法 「移設保存」

(1) 「移設保存」の場合の残し方、活かし方

【残し方】

- 転車台 … 俱知安機関区の歴史、新駅舎との連携を考慮し、現在地付近へ移設する。(現JR敷地活用の検討も必要)
- SL … 転車台と一体で活用することで価値が発生する。
- 六郷鉄道記念公園 … 現状保存で胆振線の歴史を残す。
- 風土館 … 現状保存し、鉄道の歴史を残す。

【活かし方】

- ・転車台～記念公園～風土館の動線づくり
- ・新幹線駅と連動した取組み(親子連れの憩いの空間、SLと新幹線の共存など)
- ・教育素材として活用(現物体験→記憶に残る取組みへ)

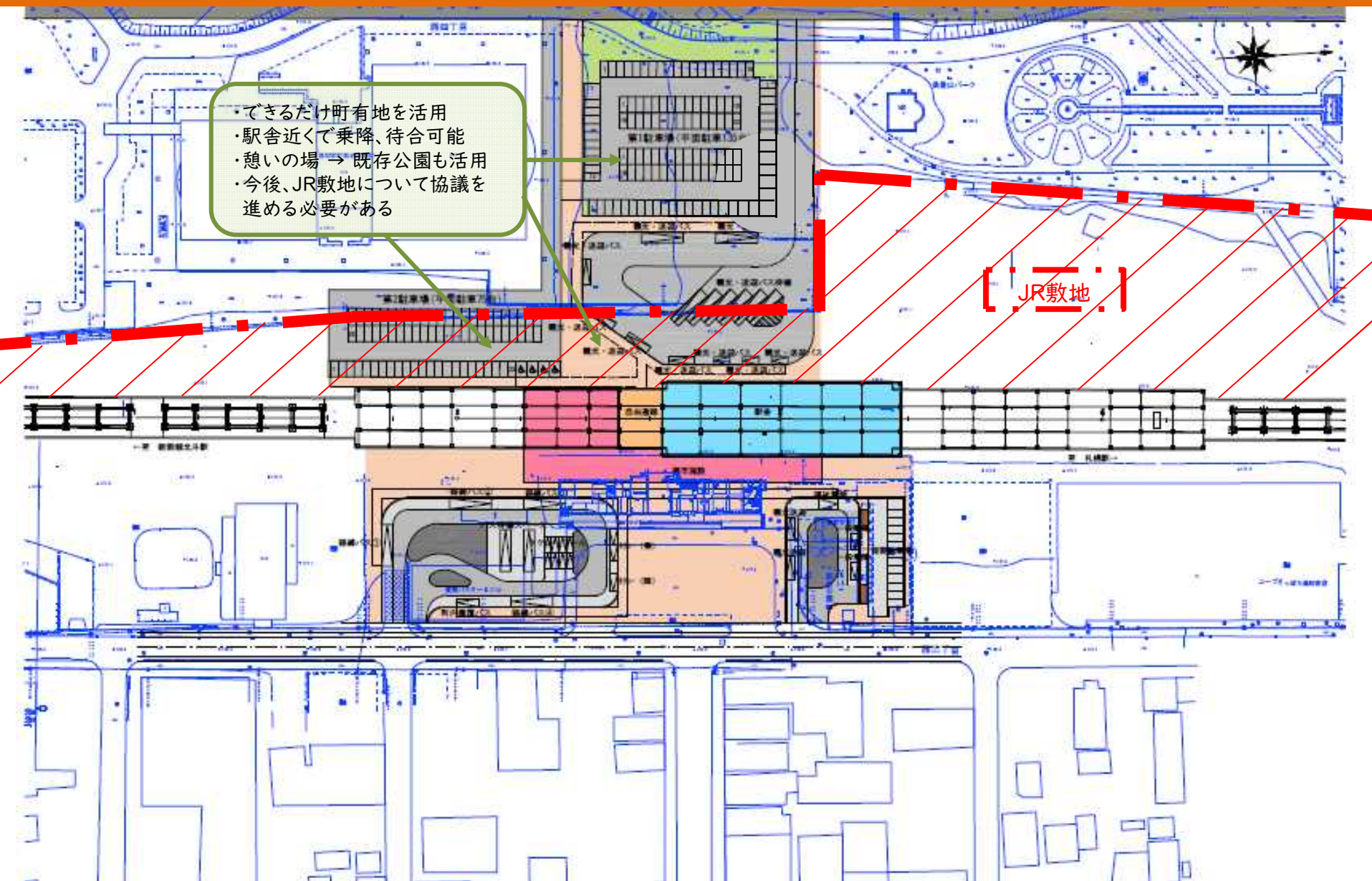
【課題】

- ・JRの敷地に近いため、線路近接工事になる可能性がある。また、将来的に車両を乗せるなどの可能性がある場合は、JRの基準を満たした構造物にすることが求められるなど、調整を要する場面が発生する。
- ・各自治体にある施設の状況や内容で大きく異なるが、多額の費用が見込まれる。
- ・移転後、毎年/数年ごとのメンテナンスが必要。(新駅に隣接し、多くの方が訪れるため「景観」「安全性」の対応が必要となる。)
- ・移転・移設可能な施設なのか(転車台そのものの強度、移設箇所の地盤など)の調査が必要となる。

(2) 参考 ※ 概算であり、今後方向性に沿った精査が必要

作業内容	概算見積額(税抜) ・ 備考
転車台 移転 (土木工事込)	70,000,000円～
転車台 修繕	5,000,000円～ + α (保存方法で異なる)
転車台 解体	+0,000,000円～
SL 移転	10,000,000円～ (別に詳細な見積も依頼中)
SL 修繕	20,000,000円～
上屋 製作	10,000,000円～
調査(構造、強度など)	※保存方法についても調査が必要
石碑作成・展示スペース 等	外構工事や案内石碑の作成など
維持管理費	毎年/数年ごとのメンテナンスが必要(例:塗装費2,000,000円/1回、年1回と仮定し、10年で20,000,000円)
公園用地・駐車場用地取得	減少する公園の考え方、駐車場用地の取得が必要(例:1,500㎡を50,000円/㎡で取得→75,000,000円)

2 旧国鉄鉄道遺産の承継方法 「記録保存」



2 旧国鉄鉄道遺産の承継方法 「記録保存」

(1) 「記録保存」の場合の残し方、活かし方

【残し方】

- 転車台 … 撤去後、都市施設などに展示スペースを設置し、記録を残す。(農業～鉄道(SL→新幹線)～観光)
- SL … 現状保存で歴史を残す。(修繕は必要)
- 六郷鉄道記念公園 … 現状保存で胆振線の歴史を残す。
- 風土館 … 現状保存で鉄道の歴史を残しつつ、ジオラマなどの追加で鉄道遺産の繋がりを作る。

【活かし方】

- ・都市施設等～記念公園～風土館の動線づくり
- ・新幹線駅と連動した取組み(俱知安駅で降りた方に町の歴史に触れてもらう。展示スペースには現駅看板など、幅広く活用できると良い。)
- ・教育素材として活用(記録→記憶に残る取組みへ)

【課題】

- ・JRの敷地に近いため、線路近接工事になる可能性があり、調整を要する場面が発生する可能性がある。
- ・各自治体にある施設の状況や内容で大きく異なるが、多額の費用が見込まれる。移設と比べると安価と想定される。
- ・記録に残すため状態(転車台そのものの構造など)の調査が必要となる。
- ・西口駅前整備に併せて撤去するだけでなく、転車台の現物保存を希望する団体等への譲渡などが可能か検討が必要。

(2) 参考 ※ 概算であり、今後方向性に沿った精査が必要

作業内容	概算見積額(税抜) ・ 備考
転車台 移転(土木工事込)	70,000,000円～
転車台 修繕	5,000,000円～＋α(保存方法で異なる)
転車台 解体	10,000,000円～
SL 移転	10,000,000円～(別に詳細な見積も依頼中)
SL 修繕	移転を考慮せず、塗装等の最低限の修繕費 20,000,000円～
土屋製作	10,000,000円～
調査(構造、強度など)	※撤去方法についても調査が必要
石碑作成・展示スペース 等	展示スペースの設置など
維持管理費	毎年/数年ごとのメンテナンスが必要(例:塗装費2,000,000円/1回、年1回と仮定し、10年で20,000,000円)
公園用地・駐車場用地取得	減少する公園の考え方 必要な駐車場用地の取得が必要

3 転車台のあり方について

(1) 今後の駅西口駅前広場の検討について

転車台は、観光送迎車両、観光バスと一般車両の利用を計画している駅西口駅前広場整備予定エリアに設置されている。
整備予定エリアは、公園用地とJR鉄道用地にまたがっており、今後の活用方法など含めて、JRとの用地協議を進める必要がある。
また、倶知安町文化財保護調査委員会における、文化財としてのあり方検討とも連携していく。

「できるだけ町有地を活用」し、「駅舎近くで乗降、待合が可能」な車両動線を設け、「憩いの場として、既存公園も活用」することを軸に設定されている西口については、現在検討しているレイアウトをベースに、本部会で積み上げた転車台のあり方を次回の北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会で報告し、令和4年度から本格的な検討を進めていく。

(2) 今後の北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会での検討について

